

自然の中で生きる私たち

西岳中学校 一年 村山 一 心

「チリーンチリーン」

いつもより雑にドアのベルがなったと同時に
にお母さんのため息が僕の耳に入った。僕は
あの夜お母さんが土砂くずれを発見したこ
となど知らずに、のんきにテレビを見ていた。
その日はすごい雨で時々雷も鳴っていた。ハ
時半に帰ると言っただけなのに九時半をとう
に過ぎていた。

ようやく僕はお母さん話しかけた。すると
僕は驚いた。いつも通っている帰り道がくず
れていった。僕は毎年防災講話で画像や映像な
どを見ているが、その映像で見ていたような
所にお母さんがいたなんじゃないかと思うと手や足
が震えた。お母さんもまだ自分の見たことが
信じられていないようだった。それから
僕は想像以上に大変な日々を送った。バス通
学の僕はバスが止まってしまったため普通
なう十五分程度で学校につくところを迂回し

乙三十分以上かけて登校しなければならなくなりました。これをおて何日続けるんだと余の方に暮れていた。

僕の家は迂回先の分かれ道の近くにあり、夜なのにピカピカ光っていたのでカーテンを手でおさえ覗いてみた。土砂くずれをしてまだあまり時間はたっていないが、交通整備の人達が真剣な表情で迂回先のルートを教えているのが分かった。また軽トラツのが土砂崩れに突っこんでしまったとキミすぐに رفتて

対応していた。運転手は無事だったそうだった。

僕はその時一つの道がくずれるとこんなにくさんの人達が協力してくださるのかと思った。大変なのは僕だけでなく交通整備の方ではないかと思いはじめるようになった。それから僕らよりかはばっている人々がいるんだから、僕もかんばるぞ。

と前向きに考えるようになった。

僕はその年消防講話を聞いた。ハザードマップなどを見て話し合いました。その時に備え

まゝでか大事なのだそう。身近で起こつて
みると、今すぐでもハザードマップを見たい
と思つたし、それと同時に今まど何度も講話
を聞いていたのになぜ僕は言われた事をやら
なかつたんだろうと思つた。今回はたま
少し離れた所であつただけでも家に近い
所び土砂をずれがあつたら僕にはなにもひま
なかつた。ハザードマップのことだけではな
く、非常食などいろいろ用意しておく物もあ
る。僕は、講話は聞くことも大事だけど、実

際に準備しないと意味がない、もうこれから
は聞いて終わるのもやめようと思つた。この
地域にもとずれやすい場所はたくさんあつた。
僕の家の近くも例外ではなかつた。
それから三日がたつて土砂がこれの所が片
側通行という形で通れるようになった。僕は
まさか三日で通れるようになると思つた。
いなかつた。これは全て交通整備の人など関
係する皆さんががんばつてくれたおかげだ。
土砂がとれた所は、片側通行の所からは

とでも全容は見えなかった。見える範囲
だけでも広いのに、またさらに奥があるとは
と、僕は心のなかで思い気が付けばポカーン
と口が開いてた。下の方にもそれは広がって
おソ、こんなのが主たるものでたまりもないと
直感で分かった。やはりテレビや映像で見る
のとは違い本物は鳥肌が出るほどで
っこれが自然の力かし。

と思った。もし僕が第一発見者なら足がすく
んだなにもびきなかっただと思う。土砂が流れ
を見て僕は、お母さん怖かっただろうなあと
もう一度思った。

僕は二の経路を通し土砂をすく処理も、
発見・報告してくれる人や交通整理の方々が
いるからこそ早期に直す作業に入ることが
し、道を直すには沢山の人手が必要なのだと
知った。一つの道がとずれ、それが元通りに
なるまでいろいろな人達に関わった。
本当に僕はその人達には感謝と尊敬の気持ち
しかない。人は助け合って生きていけるよ
うになるこ

とがたゝさんあつて、逆に助け合ふなとづ
きなゝなることもたゝさんある。これは土砂災
害に限つたことではなゝ、人は助け合つて初
めてなんの不自由もない生活をおくれている
のだ。

僕はその道をとゐると土砂くずれの時の事
を思いだして無意識にいつも見えてしまう。そ
して心の中でこつこつと誓うのだ。

僕もいろいろな人々の役にたとうとい
ふ。